小学校問題行動等防止プログラムに関する実践事例

さぬき市立造田小学校

関連項目：教育活動プラン②

「５つの合い言葉」の日常化をめざす

目的

本校の児童は，自尊感情の低さから自分も友達もあまり大切にできないことがあるという課題がありました。よりよい人間関係づくりをし，一人一人の自尊感情を高めるためには，まず毎日つかう言葉を大切にした指導をしたいと考えました。そこで，助け合い，支え合い，分かち合い，学び合い，高め合いの「５つの合い言葉」を核にした心の教育の充実を図っていくことにしました。

内容

● 月や週の目標に設定

・生徒指導の生活目標において，月ごとに「５つの合い言葉」を設定しました。設定された目標は，校長や道徳教育推進教師が月初めの朝会で全校生に紹介しました。また，月の行事計画にも明記し，学級の方で児童に話をしました。

・週番活動として，担当者が適宜「５つの合い言葉」に関する週目標を設定し，意識付けと実践化を図りました。

● 合い言葉を念頭に置いた教師の児童へのかかわり

・教師が「５つの合い言葉」を意識して児童に言葉かけをするよう努めました。

「友達のことを考えてグループ活動ができていたね。」

「友達のいいところを取り入れてまとめられたね。」

・児童が「５つの合い言葉」を使ったことを賞賛し，学級全体に紹介しました。

「〇〇さんは，こつを教えてもらってサイドクロスができるようになったと言っていましたよ。」

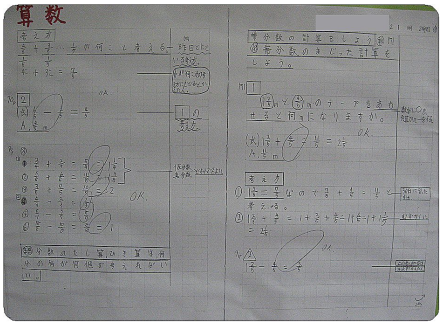
「〇〇さんは，友達に励まされて逆上がりができるようになったそうです。」

● 子どもの実践の紹介

・その月の「５つの合い言葉」を使った実践を掲示して，意識付けを図りました。

・校長が実践の掲示物を朝会で紹介して賞賛し，意識付けを図りました。

● 学び合い，高め合いのある学習



・確かな学びの技能や技術を指導しました。

話し方，聞き方，話し合いの仕方，書き方，読み方，考え方，表現の仕方

・考えや交流の足跡が分かるノート指導を工夫しました。

また，ノートをコピーして掲示し，紹介しました。

・学び合いや交流活動の工夫をしました。

ペア学習（算数，国語，体育）

４～６人のグループ学習（国語，理科，総合的な学習の時間）

成果

こうした取組をすることで，児童が「５つの合い言葉」を使う場面が多くなり，言葉遣いによるトラブルが減ってきました。学校教育活動評価でも，児童像「よさを認め合う，やさしい子どもに育ったか」の観点において，教職員による評価点が前期の２．５４から後期には３．１３まで伸びるなど，教職員も「５つの合い言葉」の取組が効果的であったと捉えています。効果を上げたポイントは，機会あるごとに話をしたり，児童の実践を掲示したりするなど，児童が意識できるようにしたことだと考えます。